

# ぎんれい句会

平成二十九年三月

啓蟄や出会ふは女ばかりなる

主宰 細野恵久

福祉三期

大魚板春一番を呑み込みぬ

増田和子

食文一期

老どちの並ぶ医師門余寒風

改正節夫

国際三期

啓蟄の我が庭動く物はなし

藤井秀重

生環四期

無言館積もるともなき牡丹雪

三枝邦光

美工五期

はだれ野へ船唄とどけ最上川

國永靖子

音文六期

ちらほらと野良に人影二月尽

猿橋二三雄

福祉八期

啓蟄や出するに聴かすツイゴイネルワイゼン

加藤善巳

美工八期

たたら跡清水に光る山葵谷

太田 實 国際十期

風見鶏向きし彼方に鳥帰る

今崎良平 音文十四期

駅を出て先行くひとの春コート

大下絹子 国際十五期

啓蟄の天地返しや虫慌て

中村建生 国際十五期

ひなまつり武骨な父の生まれし日

藤本武子 国際十五期

耕運機響き山間春動く

山下 進 国際十五期

退職の近き男の春北斗

許斐國照 食文十五期

あさり飯潮の香りを連れきたる

小淵政子 健福十六期

明日のある春の苦味を糧にして

水島麗子 国際十六期

罪なき者ひとりだになし四句節

兼清久子 健福十七期

春かすみ防潮林の隙理めし

宮本公子

健福十七期

釘煮中留守電設定たすき掛け

沖本无辺子

国際十七期

八十路への確かな歩み草青む

香春早苗

国際十七期

雪解水怒涛の海へ流れ込む

仲田慎輔

国際十七期

飛梅の上光る風京の風

中村富美子

国際十七期

湯気立てて老舗の餅屋朝早し

宮本眞貴子

国際十七期

囲はれて色香ためる寒牡丹

江間れい子

園芸十七期

風やさし父母なき里のいぬふぐり

小栗恭子

健福十八期

葉の花の水郷廻る櫓はラルゴ

潮江敏弘

健福十八期

如月の藪に飛び込む野鳥かな

野見山剛

健福十八期

晚酌の爛も微温めに春きざす

大山吉春

国際十八期

### ぎんれい句会について

ぎんれい句会は、シルバーカレッジ第一期生として在学中だった俳誌「ぐるっけ」主宰品川鈴子先生に俳句の手ほどきを受けた同期生が卒業後すぐ平成九年四月に立上げた句会で、その後次々に同窓の俳句愛好者を加えて今日まで月一回の句会を続けてきました。

鈴子先生には引き続きご指導を賜りました。平成十五年からは第三期生で「ぐるっけ」同人会長の細野恵久先輩が代って指導を引き受けておられます。

その間、平成十八年に第百回記念の、また平成二十六年には第百回記念の合同句集を発刊、句会の足どりをささやかながら形として残しました。

なお今回ご紹介する作品は第二百三十五回の句会からの一人一句です。